

税金が支える豊かな暮らし

大阪市立南中学校3年1組    グエン    チュック    リン

No.1

私は小学三年生の時に日本に来ました。日本に来て一番驚いたのは、学校に通うのにお金がかからないことでした。教科書は無料で配られ、冷暖房が整った教室、きれいなトイレ、図書室や音楽室など、すべての環境が整っています。さらに、駅や公園のトイレまで清潔でした。そのときの私は、「これが日本の当たり前なんだ。」と思っていました。さらに、ある日妹が熱を出して病院に行ったとき、保険証を見せるだけで安く診てもらえていたことに私はまたびっくりしました。「どうしてこんなに安いのだろう。」と疑問に思っていました。

海外にいた時は、学校に通うにも、教科書を買うにも、病院で診てもらうにも、全部お金がかかりました。国によっては公衆トイレを使うのにお金がかかることもあります。だからこそ、日本の「当たり前」のような暮らしはとても豊かで、私は感心しました。

そんなとき、学校で租税についての授業が

No.2

ありました。私はそこで、税金がどのように使われているのかを初めて知りました。今までの「当たり前」「豊かな暮らし」には「目に見えない支え」があったことや、その正体が税金だったことに気づきました。

教育、医療、道路、公園、警察や消防など、全てに税金が使われていて、社会全体を支えています。それらを知り、私は税金の重要性に気づきました。

それまで私は、買い物をするたびに「何で税金なんて払わなあかんの。」「税金高い。」と思っていました。でも、その税金が自分の生活を守っていると思うと、考え方が大きく変わりました。もし税金がなかったら、学校の冷暖房を使うにも、教科書を買うにも、病院の診察代も全てが自己負担になると思います。学校にも、病院にも気軽に行けなくなり、警察も、救急車や消防もお金がかかり、安心できる暮らしがなくなってしまうです。

また、税金は消費税以外にも健康を守るた

No.3

めにかけられたたばこ税や酒税もあり、道路整備や交通安全のために車を持っている人にかかる自動車税もあります。ロンドンなどでも渋滞税という渋滞の緩和や大気汚染の解消のために課される税金もあります。

このように税金は施設だけではなく、私たちの健康や社会の平等のためにも使われています。そう考えると、税金がなくなると日本は大変なことになってしまいかもしれません。

だから、私は今の安心できる「当たり前」やこの豊かな暮らしを守るために、たくさん税金を払える大人になりたいと思います。日本の未来は私たちが守っていくべきだと思います。